

さいせい

第31号 〈H25年1月〉

済生会みすみ病院
健康と福祉の情報誌

咲かせよう いのち 世代を越えて いつまでも

発行者：藤岡 正導

● 済生会みすみ病院の理念と方針 ●

理念：医療・福祉を通じて安心して生活できる地域づくりに貢献します。

方針：『地域医療を支援します』『救急医療を実践します』『健康的な生活を支援します』



健康フェスタ2012 外科手術体験コーナー

目次

- ごあいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 脳卒中、その後。
（看護認定看護師 西村 久慧）・・・・・・ 6
- 健康フェスタ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- リハビリ室だより・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
- 病院だより・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- 外来一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
- もしものときに（三角分署）・・・・・・ 12



院長 藤岡正導

創立10年の節目を迎えて



明けましておめでとうございます。みなさん、それぞれに素晴らしい新年をお迎えになられたことと思います。

さて、済生会みすみ病院は今年で創立10年の節目を迎えます。紆余曲折はありましたが、おかげさまでどうにか皆さんの期待に応えられる病院に成長することができました。これもひとえに、近隣の開業医の先生、介護施設、救急隊、行政の方々、それと何よりも地域のみなさんの絶大なるご協力とご指導のたまものと心から感謝しております。

創立当初はごく少ない科でのスタートでしたが、「すべての病気を治療できる病院に」という地域住民の強い要望に応えるために診療科の充実に努めてきました。おかげさまで、地域医療を希望する医師も少しずつ増え、当初の外科、循環器科に加え、整形外科、脳神経外科、消化器科、呼吸器科とほぼすべての病気に対応できる科がそろいました。さらに、今年は腎臓病専門医も常勤医として赴任する予定で、県内でも腎臓病の患者さんが多い三角・天草地域には大きな力になるものと期待しております。

一般診療と並ぶもうひとつの柱であるリハビリテーションの療法士も創立時の10人から3倍近くに増員しました。当院の「ウリ」のひとつである「庭園リハビリ」も広く知られるようになり、遠隔地からのリハビリ希望者も増えております。

医療スタッフの増員だけでなく医療機器の整備にも力を入れました。脳神経外科手術顕微鏡や腹腔鏡手術装置など各種の手術機器のほか、各種超音波検査器、MRI、骨粗しょう症検査のための骨密度測定器のほか、乳がんが早期に発見できるマンモグラフィなど最新の検査機器をそろえました。特に昨年は、64列CTスキャンを導入し、脳卒中や心筋梗塞などの診断精度が格段に向上しました。

また、予防医療にも取り組んできました。特に、「出前健康講座」は、「受診をいやがる傾向の強い地域に向いて、病気の予防を啓発しよう」と創立時から力を入れてきました。講座内容は当初、医師による「がん」、「心臓病」、「脳卒中」など病気の話が中心でしたが、最近では、管理栄養士による「食事の摂りかたの話」、理学療法士による「腰痛や肩こりの予防の話」、あるいは事務長による「身体が不自由になっても自分らしく生きる為の話」など多岐にわたっております。今年、講座内容をまとめた「出前講座のご案内」という小冊子を関連機関に配布したのをきっかけに依頼数が倍増しました。昨年度の出前回数合計44回でしたが、今年度はおそらくその2倍近くになると考えられます。昨年はじめ、「病院機能評価」を受審し「質の高い病院」と認定されましたが、中でも、職員のモチベーションの高さとともに出前健康講座への

取り組みが最大級の評価を受けました。

予防医療としての健診事業も充実させ、がんの早期発見のほか、高血圧、糖尿病など脳卒中や心臓病の原因となる生活習慣病の発見に努めました。一般健診以外の脳ドックや大腸ドックなどの特殊健診にも受診者が少しずつ増えております。

「もしドラ」という言葉をご存知ですか? 「もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネージメント』を読んだら」という小説の略称で、映画化されたこともあり非常に有名になりました。この中に出てくる「ドラッカー」という人は「経営学の父」と呼ばれた有名な経営学者で、経営に必要な数々の金言を残しております。その中に「事業のあり方は顧客のニーズが決める」という言葉があります。病院に当てはめると「病院が何をを行うかは地域住民の要望が決める」ということになります。私たちがこれまでドラッカーの言葉にない、地域住民の要望に耳を傾けながら様々な取り組みを行ってきました。

三角・天草地域の高齢化率は熊本県の平均を大きく上回る35%に達し、しかもその数値は急カーブを描いて上昇しております。高齢化の進行とともに急増する「独居老人」や「老々介護」に対応する医療が、これからの「地域住民の要望」の中心となるのではないかと考えております。そのため、訪問診療、訪問介護、訪問リハビリなど、これまでの「待つ医療」から「出向く医療」への転換がさらに必要になるかもしれません。

10年の節目を迎えましたが、これからも近隣の開業医の先生、介護施設、行政や救急隊の方々を力にあわせて、地域の皆さんの要望に一つ一つ応えてゆくつもりです。これまで以上のご支援とご指導をよろしくお願い申し上げます。

名誉院長 瀬井圭起



新年明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。昨年はすったもんだの挙げ句の果て、年末に解散総選挙、新政権が誕生しました。現在の日本は日中韓外交、円高、デフレ経済不況、震災復興、原発問題、少子高齢化など問題山積、まさに内憂外患の状態です。新政権には今度こそ荒廃した日本を建て直すためにしっかりと仕事してほしいものです。さて日本の65歳以上の高齢化率は26%です。三角上天草地域は更に34.5%と高齢化先進地域となつています。私自身、当院の回復期リハビリ病棟で仕事をしていまして独居のお年寄り、老ご夫婦のいかに多いことか肌身を感じています。消費税がほんとうに社会保障、医療、福祉、年金、少子化解消のため、困っているお年寄りを助けるためなどに使うのであれば、皆で出し合って皆で支える消費税のアップも止む得ないと思っています。もちろん弱い立場の方への配慮は必須のことです。ちなみにオランダは昨年消費税が19%から21%へアップされたそうですが国民のほとんどが納得しているそうです。今年もみすみ病院は地域の皆さんの安心した生活を支えたいものです。

副院長 庄野弘幸



「さらに上を目指して」

今年2月で当院も丸10年が経過します。3月からは次の10年がスタートします。皆様のおかげで、この10年間、病院も少しずつですが充実してきていると思います。病院の中だけでなく、「健康出前講座」では、皆様のお家の近くまでお邪魔させて頂きました。でもまだ「道半ば」です。前の総理大臣は「道半ば」で終わってしまいました。我々は今後も改善を続けていくことができます。住民の皆さんの高齢化が進んでおり、これまでとは違った角度から、医療のあり方などを検討していくことが必要になっていきます。皆さんが住み慣れた土地で、いつまでも元気に暮らしていけるためにどうすればいいのかを考えていきましょう。次の10年に向かって、さらに充実した医療を皆様に提供できるように、病院スタッフ一同、患者さんたちと力を合わせて進んで行きたいと考えています。患者さんたちの忌憚のないご意見を是非、私たちに伝えて下さい。今年も宜しく願います。

副院長 藤本貴久



新年あけましておめでとうございます。

済生会みすみ病院も3月で創設満10年を迎え、地域になくてはならない病院として成長してきたと思います。新しい年を迎えるにあたって、当病院の役割として地域の開業医の先生方との連携、熊本市などの高度先進医療が可能な病院との連携が今後ますます重要となってきました。これまで以上のスムーズな連携を求めて、ソフト面・ハード面の整備を行っていく必要を痛感しております。今後とも皆様のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。



内科医師 宮川比佐子



あけましておめでとうございます。今年の春で赴任してきて2年になります。一年目の目標は「当院を呼吸器学会認定施設にする」と「当院に呼吸器科医がいるとわかつてもらう」ことでした。無事認定施設となり、呼吸器科医の存在認識も開業医の先生方との連携も徐々によくなっていると思っています。

話は変わりますが、以前より救急疾患の初期対応の重要性を認識し、BLS (Basic Life Support)・ACLS (Advanced Cardiovascular Life Support) とったコースはコースが始まった当初に受講しました。数年前より内科救急と救急疾患を二連の流れで対応する JMECC (Japanese Medical Emergency Care Course) : ICLS (Immediate Cardiac Life Support) + 内科救急というコースが始まっており、私はこのコースも受講はしていました。一昨年前当院に赴任し、救急患者の中の内科救急の多いことを感じた際に、これらの初期対応を当院内外に広めたいと考え、当院赴任二年目は「ICLS インストラクター、JMECC インストラクターを取る」を目標とし努力してきました。どうにか本年度中に到達できそうです。

今年呼吸器内科医として、ICLS、JMECC インストラクターとして病院内外で活動し、また新たな目標を設定し自分自身のスキルアップをしていきたいと考えています。

麻酔科 尾方信也



明けましてお目出度うございます。

昨年5月から勤務しており、もっぱら手術時の麻酔を担当しております。従って、一部の患者さんと接触があるだけです。

麻酔を専門に40年余り、最近の麻酔技術の進歩や麻酔薬剤の開発・麻酔機器の改良等により昔に比べて格段の安全性が確保されています。

また、手術前に患者さんが不安や痛みが無く安楽に目的とした手術を受けて、早く退院できるようなチーム医療体制が組まれています。

当院は、以前勤務していた所と比べて高齢の患者さんが多くて何らかの合併症を持つておられます。安全な麻酔をめざして努力していきますのでどうぞよろしくお願い致します。

整形外科部長 西口雅彦



済生会みすみ病院整形外科を担当します西口です。日本は5人に1人が65歳以上となった高齢化社会に突入しました。

日本の平均寿命は80歳に達しますが、介助が必要なく自立して生活できる健康寿命は72歳程度です。

残りの6年から8年は誰かの介助や介護が必要となります。

整形外科ではロコモティブシンドローム(ロコモ)対策に取り組んでおります。

ロコモとは、骨や関節、筋肉、神経などが衰えて「立つ」「歩く」といった動作が困難になり、要介護や寝たきりになってしまうことです。

高齢の患者さんの腰や膝の痛みは、寝たきりの大きな原因です。

腰や膝の痛みと関係がある骨粗鬆症や変形性膝関節症の治療に取り組んでいます。

当院では、新しく開発された骨を作る薬のフォルトテオ注射を、ひどく背骨が弱り、骨折を繰り返す患者さんに使用して、いままでの内服薬ではできなかった腰痛の改善が得られております。

膝の痛みにはヒアルロン酸の注射をはじめ人工関節置換術などの手術も積極的に行っております。

腰や膝の痛みに困っておられる方は、一度整形外科を受診し相談してください。

診療部長 大島茂樹



新年明けましておめでとうございます。今年で当院は開院して10年目をむかえます。地域の方々のニーズに応じるべく多様な医療を展開して参りました。10年を一つの区切りとし、今まで行ってきた取り組みを見直し、更に地域の方々のご希望に応えられるよう新しい取り組みを始める再出発の一年にしたいと考えています。

今年に従来通りの外科疾患の診療とともに在宅支援や地域連携に力を注ぎたいと考えています。患者さんは誰でも住み慣れた家で過ごしたいと考えていますが、一旦病気になると体の状態や御家族の負担等様々な問題でお家で過ごすことが困難になる場合があります。しかしそれらの問題を医療や介護の組み合わせでカバーすればご自宅で過ごすことが可能になります。まだまだ経験値は足りませんが、試行錯誤を繰返しながら形のあるものにしたと考えています。

外科 田辺大朗



あけましておめでとうございます。みすみ病院へまいりまして2年目となりました。地域の皆様とともに歩んでいく医療をめざし、昨年は健康フェスタや出前講座などに取り組んできました。特に健康フェスタでは手術体験コーナーを準備しました。外科治療の一端を体験していただけたのではないのでしょうか。

近年は地方での医師の確保が困難になってきております。当院では済生会熊本病院の研修医の先生に地域医療について理解を深めてもらえるよう研修の場を提供しております。昨年は6人の先生がこられました。急性期治療後のリハビリや在宅支援、施設の役割など今まであまり経験していない分野であり、新鮮な体験でしたと感想を述べています。地域医療を実際に体験して将来地域医療へ進む医師が出てきてほしいものです。今年もまたどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

外科 甲斐幹男



早いもので済生会みすみ病院に來てから5度目のお正月となりました。病院の周りの桜の咲く春が来るのが待ち遠しい寒さとなっています。

この時期にもおなかをこわすいわゆる腸炎が意外と多い時期でもあります。

夏の暑い時期だけではなく腸炎はその時期その時期に原因となるウイルスや細菌に違いがあるものの、必ず意外と流行しています。手洗いや、うがいを行っておなかをこわさないように気をつけてお過ごしください。

内科 磯部博隆



地域の支えに少しでもなることができるよう、診療していきたいと考えております。

今年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

脳卒中、その後。

お薬の話

1・2 病棟 脳卒中リハビリテーション

看護認定看護師 西村 久慧



みなさんは、自分が飲んで
いるお薬の内容をご存じですか。「最近
は調子がいいから飲まなくてもいいか」「この薬は、〇〇
さんが良くないと言っていたから」「この薬を飲む
と、どうも調子が悪くなる」などと、お薬を自
分の判断で中止していることはありませんか。

脳卒中の治療には、薬物療法・外科的治療・血管内治療・リハビリテーションなどがあります。看護師はこれらのすべてに関わる仕事をしていま
す。なかでも、医学技術の発達で、毎年新しいお薬が開発され、薬物療法は年々変わってきていま
す。

今回は、脳梗塞の治療

で使われる頻度の高い、「バイアスピリン」というお薬の話を通して、脳卒中リハビリテーション看護認定看護師の立場から患者さん・ご家族にお伝えしたいと思います。

脳梗塞を一度起こしてしまっ
た方は、血管の中に血のかたまり（血栓）ができやすく、再び脳梗塞を起しやす
い状態にあります。脳梗塞の再発を防ぐお薬（抗血小板薬）は血液の成分（血小
板）の活性を抑え、血栓をできにくくすること
で、脳梗塞の再発を防ぐ、お薬です。その代表が「バイアスピリン」です。「バイアスピリン」を飲むにあ
たってのポイントをお伝えします。

一つ目に、副作用をできるだけ避け、お薬の効果を十分に発揮させるためにはお薬を正しく服用する必要があります。正しい時間に、決められた量を、コップ1杯の水または白湯で飲みましょ
う。お茶やジュースなどでは、お薬の効果が弱くなるこ
ともあります。

二つ目は、出血傾向に十分注意する必要があります。「バイアスピリン」は再発予防として効果の高いお薬ですが、「血をサラサラにするお薬」です。血をサラサラにする「血が止まりにくくなる」ということです。そのため、強い衝撃を避けることが必要です。例えば、転倒や打撲に注意しましょ
う。

さらに、「バイアスピリン」内服中に、抜歯や手術をするようなことがあれば、担当医に相談をしましょう。最近では、脳梗塞の再発予防を優先し「バイアスピリン」を中止せず、抜歯を行う場合も多くなってきましたが、必ず担当医に相談されることをお勧めします。

三つ目は、お薬の自己中断をしないことです。よくなったと思っても脳梗塞の危険はずっと続きます。脳梗塞発症後、10年以内に2人に1人が再発すると報告されています。なかでも、お薬をきちんと飲んでいなかった、自己中断したために再発したという方が半数以上を占めていることが分かっ

ています。再発予防のためのお薬の中止・継続は医師の指示のもとに行つて下さい。

四つ目は、「バイアスピリン」を飲み忘れた場合の対応です。飲み忘れたことを気がついた時点で1回分を飲みましょう。ただし、翌日まで気がつかず忘れた場合は、絶対に2回分を一度には飲んではいけません。迷ったり、分からない場合は、担当医または薬剤師に相談しましょう。

五つ目は、自分の飲んでいるお薬を把握するため、お薬手帳を利用しましょう。これまで、「バイアスピリン」を中心にお話してきましたが、「血をサラサラにする薬」と耳

にすると、もうひとつ有名なお薬が「ワルファリン」というお薬を思い出される方も多いと思います。これらは、なぜ脳梗塞を発症したかなどを考慮して処方されます。同じような作用を持つお薬でも、その効果や注意する点が違うため、自分が飲んでいるお薬の内容を把握しましょう。しかし、みすみ病院は高齢の患者さんが多く、「そんなことを言われても難しい」と言われる方は、是非、お薬手帳の利用をお勧めします。

最後に、脳梗塞の再発を予防するには、患者さん自身にお薬の必要性を理解して頂き、お薬を正しく内服していただくこ

とが非常に重要です。今回のポイントをもう一度振り返りましょう。脳梗塞の再発を予防する「バイアスピリン」内服中に注意することは、

1. お薬は正しく服用する。
2. 出血傾向に注意する。
3. 自己中断しない。
4. 飲み忘れてもあわてずに対応する。
5. お薬手帳を利用する。

以上です。自分の身体を自分自身で守れるようにお薬の服用方法を守って下さい。

健康フェスタ2012を 開催しました

10月21日(日) 雲一つない晴天の中、「健康フェスタ2012」を開催しました。今年で3回目の開催です。昨年はあいにくの雨模様で客足も伸び悩みましたが、今回は天候にも恵まれ、なんと「約700名」の方々が周辺地域から足を運んで頂きました。

「三角町」では、毎年夏に港一帯で打ち上げ花火やパレードが行われる「みなと祭り」が開催され、1年を通して最も「三角町」が活気づく(人口密度が高くなる)イベントがあります。「健康フェスタ」はその次に三角町を元気づけるイベントであるとして、勝手ながら自負しております。それぐらい今回は、大大大盛況でした。

3回目の開催となると、スタッフから斬新なアイデアがどんどん出てきて、院内で行

う各イベントの数は「14」に上り、毎年進化し続けています。子どもから高齢の方まで幅広い年代の方に楽しんで頂くことをコンセプトに、子どもたち向けには、外科手術体験やエコー体験などの医療体験を中心に、高齢の方向けには、健康相談、お薬相談、栄養相談といった、相談コーナーを中心に企画しました。今回から新しく追加され人気が高かったイベントが、「アロマ入り足浴」「乳がん触診体験」「縫合体験」「セラピスト体験」「栄養相談」です。「縫合体験」では、外科の大島先生が小学生の女の子に熱心に教えるあまり泣かせてしまったというエピソードもありました。そのほか、9月に更新を行った地域で唯一の「64列CT」を使って、鶏肉や野菜の撮影と、3Dの立体画像処理の実演を行い、CT宣

伝部長の吉川技師が、ちゃっかりコマージュルをする一幕もありました。来場者のアンケートでは、「子どもからお年寄りまでそれぞれの立場で楽しめるようになってるのは本当に良かった」「家族で健康について改めて考えることができ、とてもよかった」といった声を頂き、スタッフが試行錯誤して考えたアイデア・企画は、大成功だったのではと思います。

また、今回、フェスタの「取り」を務めて頂いたのは、「笑福亭鶴笑さんの落語会」です。笑福亭鶴笑さんは、笑福亭松鶴一門の落語家で、国内だけでなく、戦火で苦しむイラクの子どもたちに笑いを届けるなど海外でも活動をされています。今年は、寄席に来ることが出来ない病院や老人ホームの人たちに笑いを届ける「ボランティア落語会」で、



100施設訪問を目標に活動され、当院は94施設目として、遠く兵庫からお越し頂きました。お手製の人形を使った「パペット落語」で、会場は大爆笑の渦に包まれ、「笑い」が人々にとって最も元気を与える特效薬であることを証明してくださったような気がします。

約4ヶ月に渡り、業務終了後に行う企画・準備はスタッフにとって大変だったと思います。しかしながら、フェスタの3つの「思い」

①地域へ日頃の感謝の気持ちを伝えること

②病院をオープンにし、医療・健康のことを知ってもらい、もっと病院を身近に感じてほしいこと

③地域の子どもたちが医療に興味をもち、将来この地域の医療を守る人材に育ってほしいこと

をスタッフ一人一人が真剣に考え、この思いを表現するチャンス（機会）として捉えたので、労力を惜しまず取り組みたのではないかと思います。今回はお天道様も味方につけ、たくさん地域住民の方に来場して頂きましたので、スタッフの皆さんが頑張った甲斐がでてほんとに良かったと思います。

そして、このようなイベントは当然ながら当院単独でできることではなく、例年、各方面からご協力を頂いております。熊本病院からは人気を博した手術体験、BLS体験の機材をお借りし、福祉センターからは手作りパンと焼そばの販売、撫子会からはカレー・ジュース等の販売をしてもらい、フェスタの盛り上がりを手伝って頂きました。ご協力頂きました関係者の皆様本当にありがとうございます。



いました。さいごに、アンケートの中で、最もうれしいお言葉を紹介します。「始めて参加させて頂きました。スタッフの方々の細かい心配りに驚きと感謝です。久々に有意義な日となりました」。スタッフの皆さん本当にお疲れ様でした。

リハビリ室だより

地域リハビリテーションについて

リハビリテーション室
五十嵐稔浩



リハビリテーションという言葉は、言葉で聞いて病院や施設などで理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が行う機能訓練やコミュニケーション訓練やイメージする方も多いのではないのでしょうか？しかしそれは重要なリハビリテーションの一部ではありますが、それが全てではありません。

今回は、地域リハビリテーションについてお話をしたいと思います。地域リハビリテーションとは、「障害のある人々や高齢者およびその家族が住みなれたところで、そこに住む人々とともに、一生安全に、生き活きた生活を送れるよう、医療や保健・福祉および生活に関わるあらゆる人々や機関・組織がリハの立場から協力し合って行う活動の全てをいう。」（日本リハビリテーション病院・施設協会）と定義してあります。つまり、医療や保健・福祉関

係者そして地域住民全てがリハビリテーションの立場から協力し住み良い安心した地域を創造していくことと捉えることができます。

当院は、この地域リハビリテーションの視点に立って3つのリハビリテーションを展開しています。

1つ目は、病気や介護の必要な状態にならないための予防的リハビリテーションです。健康で元気な高齢者の方々が介護の必要な状態にならないように運動や日常生活指導などを行う介護予防事業を行っています。

2つ目は、病気や障がいが生じて可能な限りもとの状態に回復をうながす急性期・回復期リハビリテーションです。現在30名の療法士が患者さんや御家族とともに社会復帰・家庭復帰を目指して日々リハビリを行っています。

3つ目は、歳をとっても障

がいが生じて住み慣れた地域で生活が続けられるよう支援する生活期リハビリテーションです。当院では訪問リハビリテーションを行っており、病気や加齢によって障がいが生じ、体が弱ってしまった方も住み慣れた場所で生活ができるように自宅でのリハビリを行ったり、介護の仕方を指導したりしています。

平成24年4月、地域リハビリテーション推進啓発機関として、熊本県より宇城地域リハビリテーション広域支援センターの指定を受けました。

「医療・福祉を通じて安心して生活できる地域づくりに貢献します。」これは当院の理念です。私たちリハビリテーションスタッフはこの理念のもと、リハビリテーション活動を通して心身ともに健康的で安心した生活のできる地域づくりに貢献していきたいと思っています。

中学生が職場体験 に来てくれました

企画総務室



9月4日（火）から6日（木）まで、三角中学校より2名の女の子が職場体験に来てくれました。二人とも看護に興味があるとのこと、三日間に渡り、病室での患者さん対応や検査室・放射線室・薬局・患者さんの食事を作っている栄養などを回り、手術着を着てみたり、AED体験を一生懸命やってくれました。体験後の感想は「病院ではお医者さんと看護師さんだけが働いていると思っていたけど、いろいろな方が関わって患者さんのために仕事をやっているというところがわかりました。これからたくさん勉強して看護師さんになりたいです」ということでした。

出前健康講座

医療相談室



当院では地域の方々の保健予防活動の一環として、公民館などで出前健康講座を行っております。平成24年4月から11月までで48件行いました。9月14日に三角保健センターで行われた出前健康講座では「がんについて」の講座を行い、外科の田辺医師と研修医の先生からがんの治療法や予防について話をしました。地域で「こんな講座を聞きたい」等ご要望がございましたら、少人数からでも無料で行っておりますので医療相談室までご連絡ください。

満足度調査を実施しました

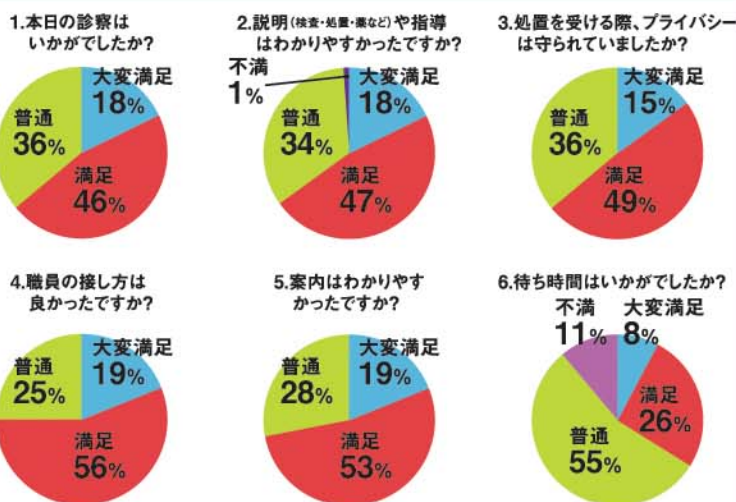
外来検討委員会

みなさん、当院の満足度はいかがでしたでしょうか？
今年度は10月22日（月）から26日（金）の5日間で外来患者さんに満足度のアンケートを行いました。

内容は①本日の診察、②説明（検査、処置、薬など）や指導のわかりやすさ、③処置を受ける際のプライバシーは守られていたか、④職員の接し方は良かったか、⑤案内は分かりやすかったか、⑥待ち時間について、6項目の満足度を、『大変満足・満足・普通・不満』の4段階評価をしてもらいました。

その他、気づいた点についてのコメント欄ももうけました。以下が今回の集計結果です。

調査結果集計後には、外来検討委員会で現状の把握と改善策を考えて実施しています。少しでも患者さんの満足度を向上できるよう、継続した取り組みを行いますので、日常の外来診察時などにお気づきの点があればご意見をお寄せ下さい。よろしくお願いします。



2013年 1月 外来一覧表

受付時間午前8:30～11:00

診療科	午前・午後	月	火	水	木	金
外科	午前	タナベ 大朗		オオシマ 茂樹	カイ 幹男	
整形外科	午前	ニシグチ 西口 雅彦	ニシグチ 西口 雅彦		ニシグチ 西口 雅彦	
	午後		ニシグチ 西口 雅彦			
脳神経外科	午前			フジオカ 藤岡 正導	コバヤシ 小林 修	
	午後			フジオカ 藤岡 正導		
心臓血管外科	午後					サツサ トシハル 佐々 利明
内科	午前		イソベ 礒部 博隆	イソベ 礒部 博隆		
循環器内科	午前	ショウノ 庄野 弘幸	ショウノ 庄野 弘幸	ショウノ 庄野 弘幸	ショウノ 庄野 弘幸	
	午後	ショウノ 庄野 弘幸	ショウノ 庄野 弘幸		ショウノ 庄野 弘幸	ショウノ 庄野 弘幸
呼吸器内科	午前	済生会熊本病院医師			ミヤカワ 宮川 比佐子	ミヤカワ 宮川 比佐子
消化器内科	午前	フジモト 藤本 哲人	フジモト 藤本 貴久	ツキムラ 築村 哲人		フジモト 藤本 貴久
	午後			ツキムラ 築村 哲人		
泌尿器科	午前		済生会熊本病院医師			済生会熊本病院医師
肝臓外来						フクバヤシ 福林 光太郎
腎不全外来 (予約制)	午後		済生会熊本病院医師	済生会熊本病院医師 (第4週)		
糖尿病外来 (予約制)	午前					ホシノ 星乃 明彦 (第2週) マツオ ヤスト 靖人 (第3週)
禁煙外来 (予約制)	午後	ミヤカワ 宮川 比佐子				ミヤカワ 宮川 比佐子
乳腺外来	午前	タナベ 大朗		オオシマ 大島 茂樹		
脳ドック (予約制)	午後			フジオカ 藤岡 正導		

※基本的に午後は予約となります。初めての方は午前11時まででいらして下さい。

もしものときに

救急車の利用が増えている現在、多数の方が119通報をすれば救急車が出動するということは御存知と思いますが、今回119通報の仕方についても一度確認したいと思います。

まず、宇城広域連合消防本部管内から119通報すると通信指令室につながります。係員が以下の内容を質問しますので落ち着いて答えてください。(ここが大事)

- ・最初に火事か救急か
- ・何があったのか、怪我人・病人の状況についてなど
- ・災害の場所(住所)と名前を、または目標物など
- ・通報者の氏名と電話番号(連絡先)など

次に携帯電話からの119通報ですが、地域によっては、消防本部管内から通報しても近隣消防本部につながる場合があります。その場合は接続先の係員の指示に従ってください。しかし携帯電話での通報は声が聞き取りにくかったり、通話が途切れたりする恐れがあるので通報の際はできるだけ固定電話にてお願いします。また、救急車には、救急救命士が同乗しており症状により気管挿管・薬剤投与等の特定行為を行います。この際、医師と連絡を取りながら行うため、現場を発する時間が遅くなる場合があります。

最後に、救急車の適正利用がよく呼びかけられていますが、要請をするなどということではありません。「安易な」要請は控えてほしいということです。我慢して我慢して症状が悪化してからでは遅い時があります。要請をする、しないは一人一人のモラルの問題でもあります。必要と感じられた場合は、遠慮せず要請を行ってください。

宇城広域消防本部 南消防署三角分署 救急係



発行日／平成 25 年 1 月

監 修／庄野 弘幸

発行所／ 熊本県宇城市三角町波多 775-1

社会福祉法人 恩賜財団

済生会みすみ病院

広報委員会

TEL 0964-53-1656 FAX 0964-53-1657

